

## 平成29年度第6回三重県総合教育会議 議事録（概要）

- 1 日 時 平成30年1月9日(火) 13:00～14:30
- 2 場 所 県庁講堂
- 3 出席者 知事、教育長、教育委員4名  
(ゲストスピーカー) 兵庫県立大学大学院特任教授 諏訪清二氏
- 4 議 題 ・防災教育について  
・教職員のワーク・ライフ・バランスについて
- 5 主な意見 ○：教育長・教育委員、●：知事、☆：ゲストスピーカー

### <防災教育について>

- ☆ 防災教育においては、学力の育成と同様に「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「意欲・関心・態度」の3つを身につけることが重要である。
- ☆ 防災だけでなく幅広い面で地域と子どもをつないでいくことが重要である。例えば地域安全マップを作るときには、地域の危険箇所だけでなく、地域の面白い所や自慢を書き込んだ地図をつくるなど。
- ☆ 子どもが学校で学んだことを家で話すようにすることは保護者の意識を高め、家庭内の防災学習を活性化するうえで有効である。
- ☆ マニュアルを一生懸命つくることは必要だが、実際の災害はマニュアル通りにはいかない。マニュアルの作成過程でたたき込んだノウハウを頭に入れて臨機応変に行動することが大切である。
- ☆ 防災とは関連がなさそうな国語や算数などの科目でも工夫次第で防災学習を実施することは可能である。
- ☆ 防災教育を推進するには、トップダウンの取組（研修、チームの設置など）とボトムアップの取組（皆が忌憚なく意見を言える場など）の両方が必要である。
- 想定外という言葉で終わらせるのではなく災害に対する想像力を発揮することが大事である。そのためには過去の被災地からの教訓から学ぶことや普段からの備え、災害時に瞬時に合理的な判断ができることが重要となる。
- 地域における防災の取組を進めるためにはチームでの対応が重要である。防災ノートについては保護者への周知をさらに図る必要がある。
- 教員には災害時に学校の特性を踏まえながらマニュアルを実践できる行動力が求められる。中高生は災害時の瞬時の判断力を行動力に変えることが大事である。
- 地域と学校が一体となった災害対応を進めていくためにはコミュニティ・スクールやまちづくり協議会などを活用することが有効である。また、地域

と「顔を合わせる」ことの必要性を子どもたちも知っておくべきである。

- 防災ノートに関して、定着とマンネリは紙一重なので、教育委員会においては、保護者への周知など活用が図られるよう対応をお願いしたい。

#### <教職員のワーク・ライフ・バランスについて>

- 教職員が負担を軽減し、子どもたちと向き合う時間を確保するには、学校運営や部活動の時間を削減していかなければならない。そのためには、コミュニティ・スクールなどを活用し、地域と学校のつながりを強化していくことが大事である。
- 教職員の勤務実態については、新聞報道などで多くの保護者が認識している。定時退校日などの取組を保護者に理解してもらうためには、学校の年間スケジュールに明記することも有効である。
- 教職員の総勤務時間の縮減は、トップの人間がどれだけ真剣に取り組むかにかかっている。保護者の求めることは人それぞれであるので、すぐに理解してもらうことは難しいかもしれないが、諦めずに取組を継続していくことが重要である。
- 教職員の仕事は、境界がなく、ワーク・ライフ・バランスが大事と言うだけでは解決できない。リーダーシップをとるべき校長がある程度トップダウンによりすすめていくことも必要である。
- 教職員は、真面目で、どれだけでも仕事をやってしまうところがある。子どもたちのために本当によい仕事をするというのはどういうことか、伝えていきたい。
- 教職員の時間外労働の主な要因である学校運営は幅が広いので、その内容をもっと細かく分類して無駄や時間外でなくてもできることはないか突き詰めていく必要がある。

働き方改革に成功しているところは、「仕事の見える化」と「チームでの取組」ができているので、このような観点からも進めるべきである。

以上